



TITLE:

# 学会抄録 第54回日本泌尿器科学会 中部総会デイベート8「Aging Coupleの性」

AUTHOR(S):

並木, 幹夫

---

CITATION:

並木, 幹夫. 学会抄録 第54回日本泌尿器科学会中部総会デイベート8「Aging Coupleの性」. 泌尿器科紀要 2005, 51(9): 589-589

ISSUE DATE:

2005-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113686>

RIGHT:

## ディベート 8 「Aging Couple の性」

—司会の言葉—

並 木 幹 夫

金沢大学大学院医学系研究科泌尿器科学

PDE-5 阻害剤の登場や、男性ホルモン補充療法の話題、さらには神経温存前立腺全摘術の普及など、男性の勃起能の温存が高齢男性の QOL の向上につながるかのような考えが泌尿器科医の間で広がっている。このような考えは欧米では一般的であるかもしれないが、日本の状況は必ずしも同じではない。また、性は男女の問題であり、男性の一方的な行為だけでは成り立たないにもかかわらず、女性の性をあまり考慮せず性が語られ、性の治療が行われているのが泌尿器科診療の現状ではないかと思われる。

このディベートで、安本亮二先生は老人ホーム入所夫婦、独居男性、独居女性の、それぞれの性機能や性生活を調査した結果から、高齢夫婦の生活コミュニケーションに、性行為コミュニケーションが必要であると結論し、泌尿器科医の役割の重要性について論じ

た。

一方、荒木乳根子先生は配偶者がいる中高年のセクシュアリティ調査の結果に基づき、Aging couple が成熟した性関係を持つためには、日常の会話や触れ合いがある夫婦関係を築き、スローセックス、すなわちピロートークや愛撫を楽しむ、性行為にこだわらないことが大切であると結論した。

双方の主張は、いずれも詳細な貴重な調査に基づいたものであり、ディベートとなる矛盾点はあまりなかった。特に今回、女性の立場からの性の実態が明らかにされたことは、おもに男性の性について診療する泌尿器科医にとって、非常に参考になる発表であった。

(Received on May 13, 2005)  
(Accepted on May 26, 2005)